

介護職及び介護施設での就職に関する意識調査 報告書

令和6年12月

北九州市保健福祉局先進的介護システム推進室
(受託者：麻生教育サービス北九州支店)

概要

目的 介護職を目指す学生及び教職員の介護ロボットやICTに対する意識を明らかにする

方法 Google Formsによるオンラインアンケート

実施時期 2024年1月～2月

北九州市内の介護・福祉関連資格養成課程を有する学校の学生及び教員

学生 156人 (5校)
教員 15人 (6校)

対象 折尾愛真高等学校 普通科 福祉コース
九州医療スポーツ専門学校 生涯スポーツトレーナー介護福祉学科
慶成高等学校 福祉科
西南女学院大学 保健福祉学部 福祉学科
戸畑高等技術専門学校 介護サービス科 ※学生の回答なし
東筑紫短期大学 専攻科 介護福祉専攻

学生アンケート

アンケート項目（学生）

Q1	介護職のイメージは？ 3つ選んでください	<ul style="list-style-type: none">・資格や専門知識を活かせる・世の中のためになる・年齢を問わず仕事ができる・今後も求められる仕事・体力的にきつい仕事・精神的にきつい仕事・休みをとりづらい・その他
Q2	将来、やりたい仕事は？	介護職・介護職以外の福祉職・決めていない・その他 ※「介護職」を選んだ場合 →Q3-1へ ※「介護職」以外を選んだ場合 →Q3-2へ
Q3-1	Q2で「介護職」を選んだ理由は？ ※回答後、Q4へ	
Q3-2	Q2で「介護職」を選ばなかった理由は？ ※回答後、終了	
Q4	授業や実習を経験して、介護職のイメージはどのように変わりましたか？	良くなった・変わらない・悪くなった
Q5	Q4の理由は？	

アンケート項目（学生）

Q6	就職先を決める時に求めるものは何ですか？ 3つ選んでください	勤務地・給与・人間関係・評判・規模・福利厚生・ワークライフバランス・教育／研修体制・キャリアアップ・その他
Q7	どこで働きたいですか？	介護施設・病院・障がい者施設・その他 ※「介護施設」を選んだ場合 →Q10以降へ ※「介護施設」を選ばなかった場合 →終了
Q8	どんな施設で働きたいですか？ 3つ選んでください	<ul style="list-style-type: none">・法人、施設の考えに共感できる・ユニフォームがかっこいい・介護ロボットを使っている・やりがいを感じられる介護ができる・休みを取りやすい・施設がきれい・デジタル・ICT化が進んでいる・新たなことにチャレンジしている・施設の行事・イベントをたくさんしている・職場の雰囲気が良い

アンケート項目（学生）

Q9	介護ロボットを知っていますか？	知っている・知らない
Q10	介護ロボットやICT機器を使っている施設で働きたいですか？	働きたい・働きたくない・どちらでもない
Q11	Q10の理由は？	
Q12	「北九州モデル」の動画を見て「北九州モデル」に興味はありますか？	興味がある・興味がない・どちらでもない

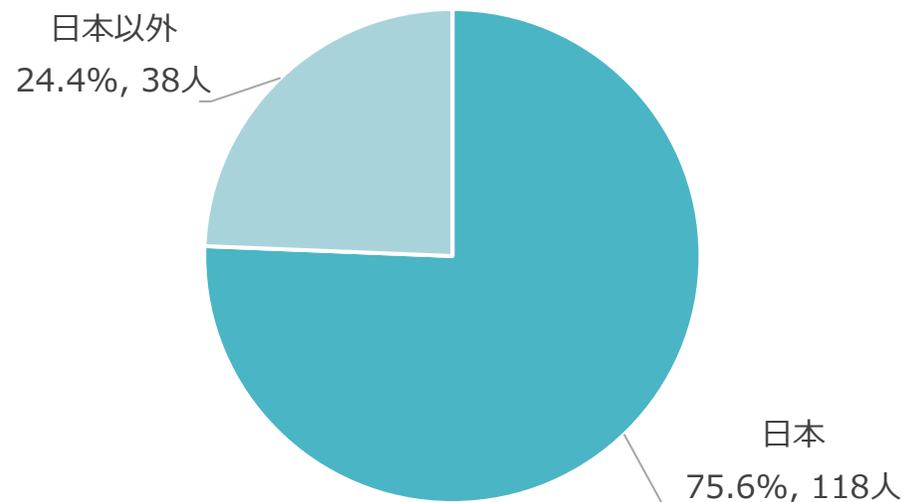
アンケート結果（学生）

概要

◆ 学年

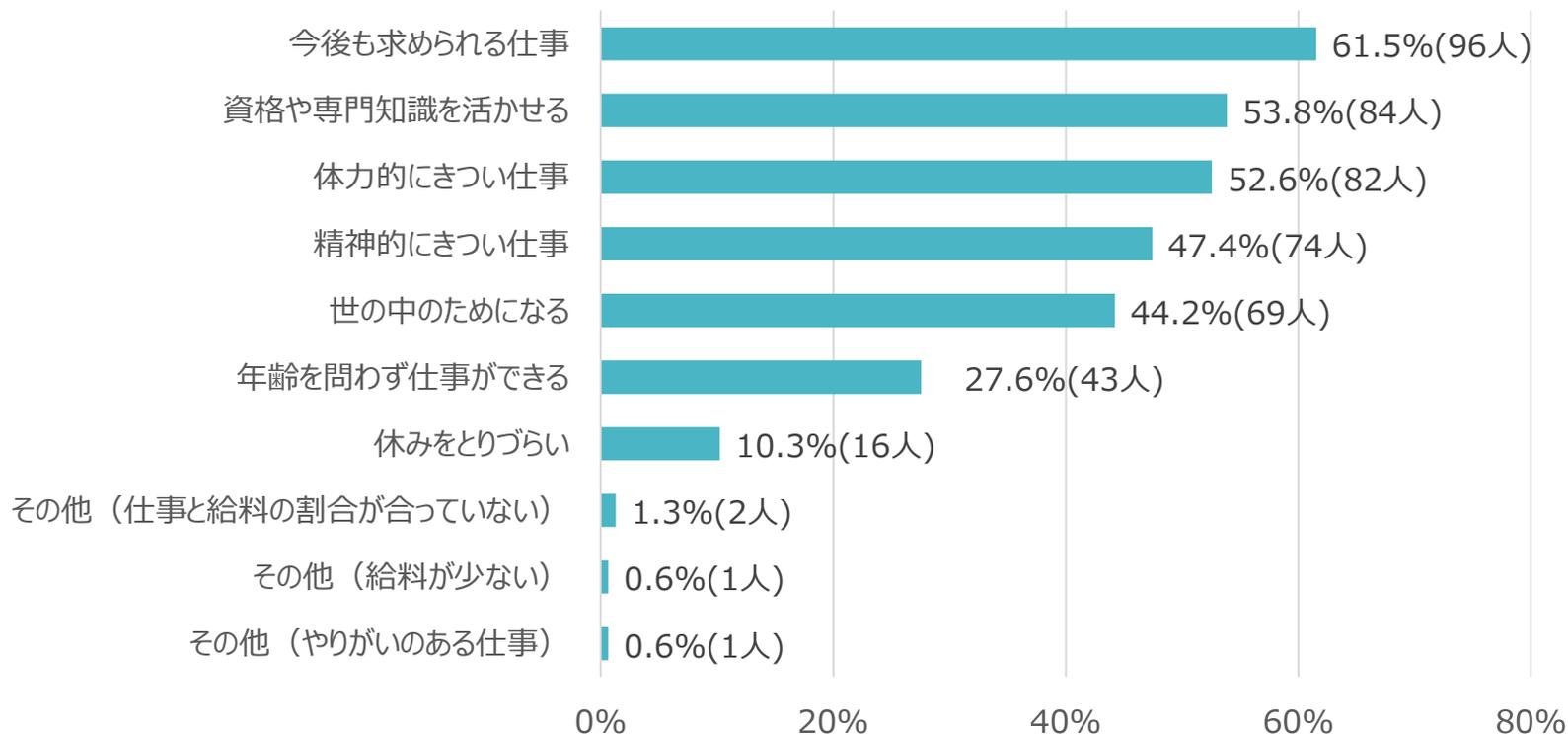
1年次/1年制	11人
1年次/2年制	23人
2年次/2年制	25人
1年次/3年制	27人
2年次/3年制	29人
3年次/3年制	27人
1年次/4年制	7人
2年次/4年制	5人
3年次/4年制	1人
4年次/4年制	1人

◆ 国籍



アンケート結果（学生）

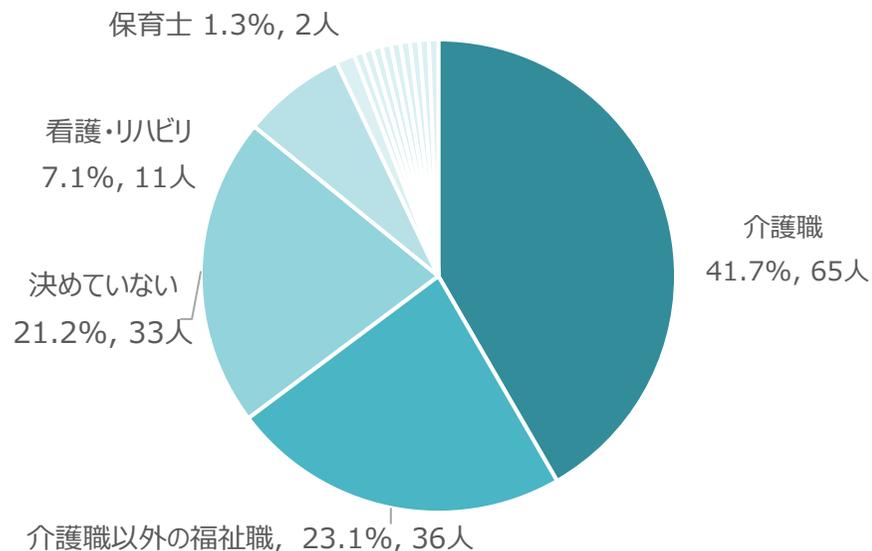
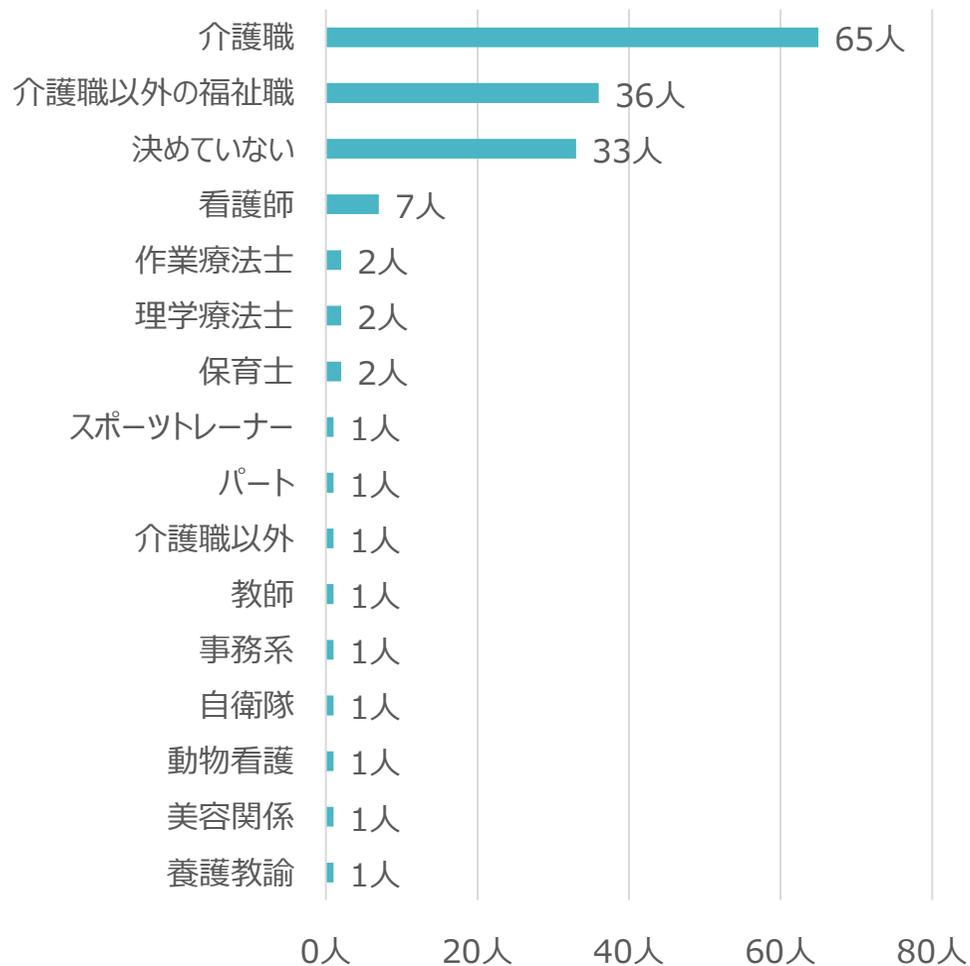
Q1 介護職のイメージは？ 3つ選んでください



「今後も求められる仕事」「世の中のためになる」という社会的ニーズに対するイメージが強くなっている。一方で、「体力的にきつい仕事」「精神的にきつい仕事」が上位にあり、業務上の負担の大きさを懸念する声が多くなっている。

アンケート結果（学生）

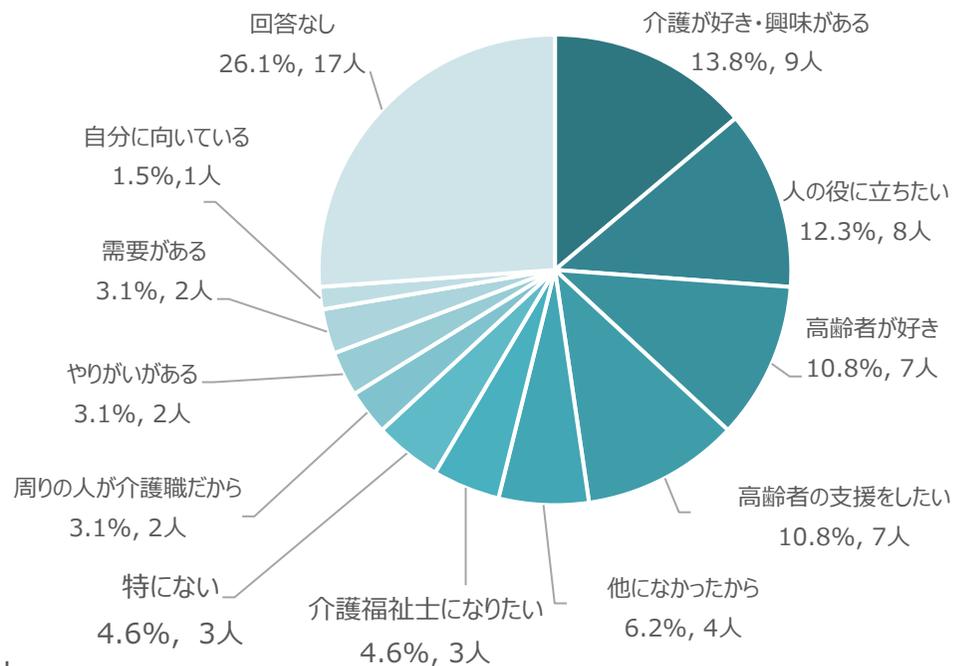
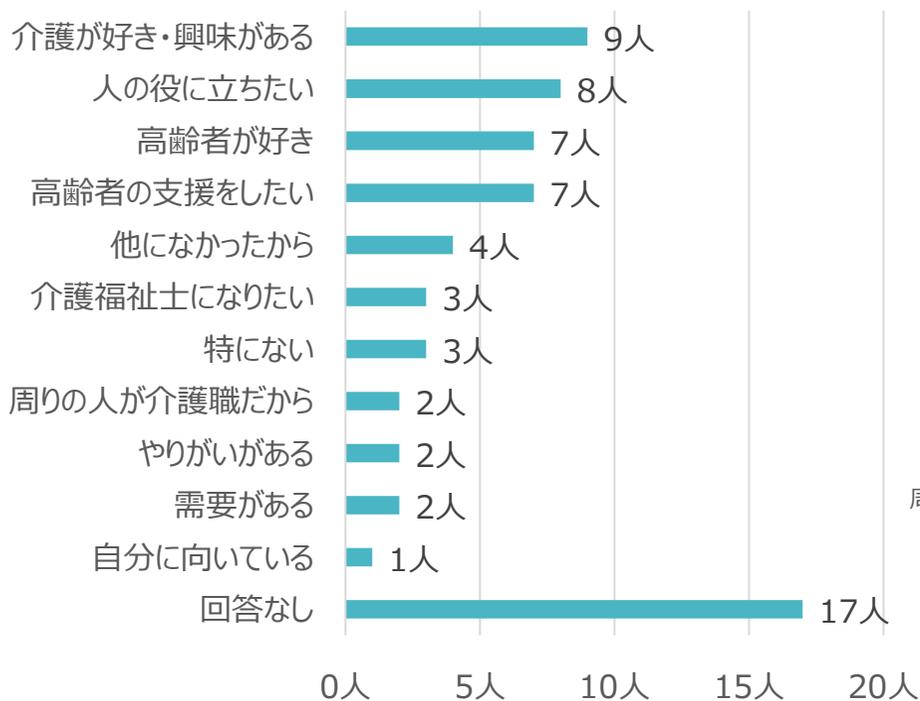
Q2 将来、やりたい仕事は？（n=156）



介護職及びその他の福祉職で全体の41.7%(65人)を占めている。
一方、21.2%(33人)が職業を決められていない。
学校卒業後に新たに医療職（看護師・理学療法士・作業療法士）の資格取得を考えている学生が7.1%（11人）みられた。

アンケート結果（学生）

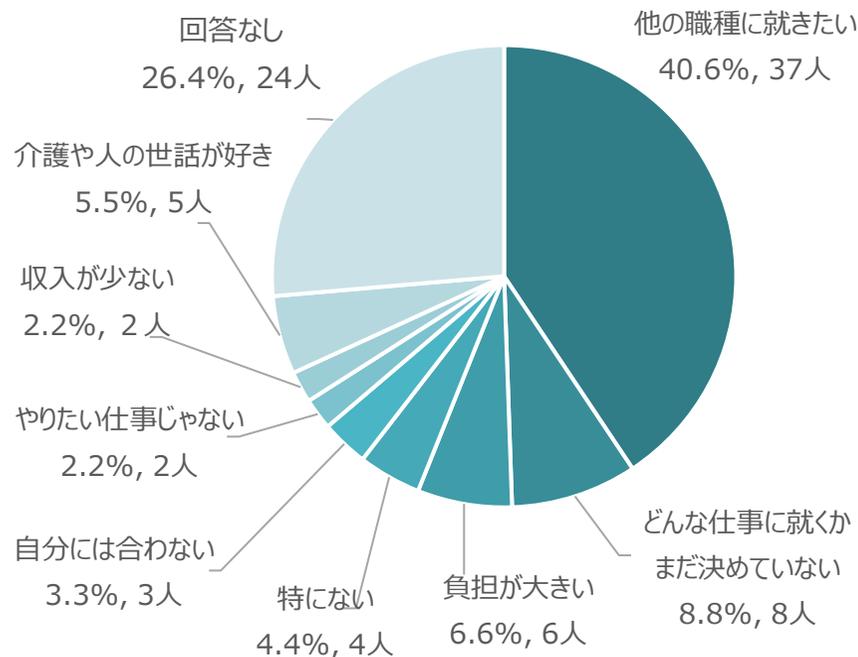
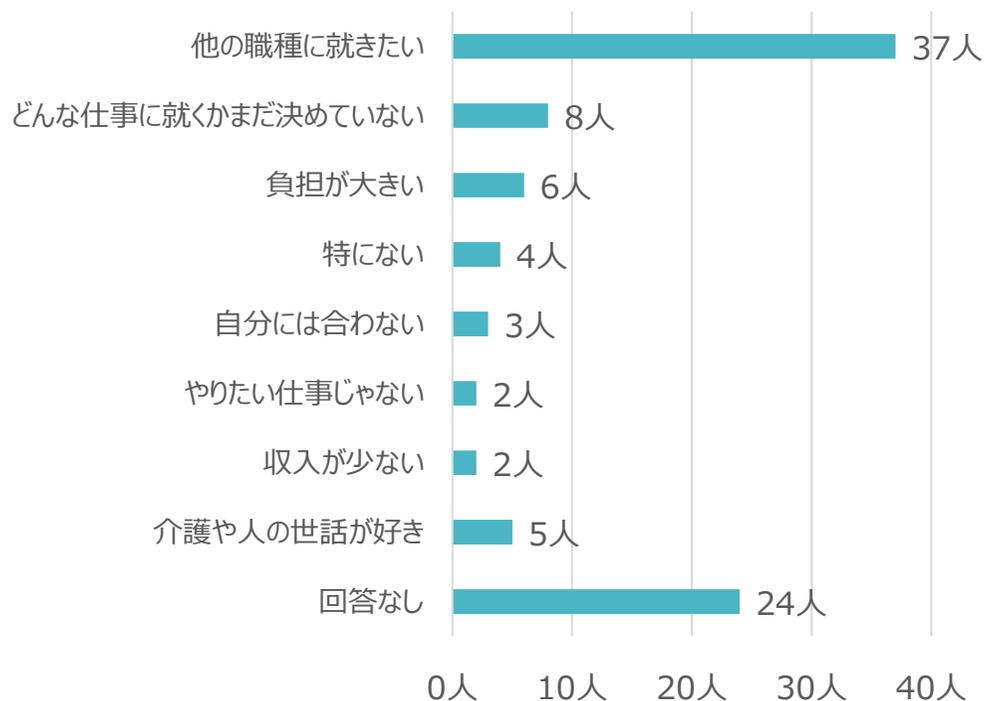
Q3-1 「介護職」を選んだ理由は？（n=65）・・・Q4へ



「介護職」を選んだ理由として最も多いのは「介護が好き」や「興味がある」といったもので13.8%(9人)が回答している。

アンケート結果（学生）

Q3-2 「介護職」を選ばなかった理由は？（n=91）・・・回答終了

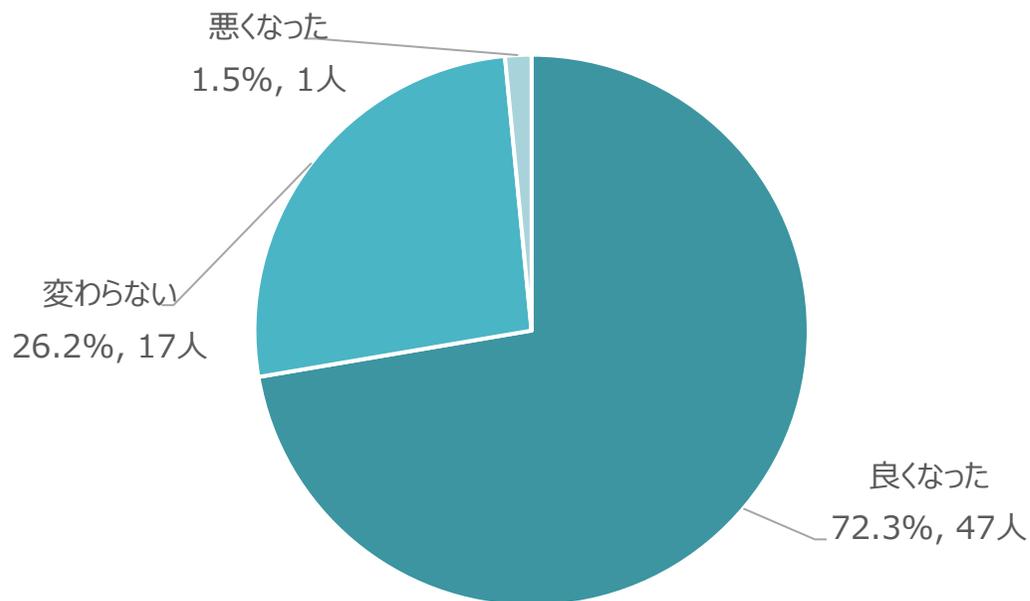


「介護職」を選ばなかった理由として最も多いのは「他の職種に就きたい」といった回答であった。

アンケート結果（学生）

※以降の設問はQ3で「介護職」と回答した学生のみを対象とする

Q4 授業や実習を経験して、介護職のイメージはどのように変わりましたか？（n=65）



65人の学生の内、「良くなった」が72.3%(47人)で、「変わらない」が26.2%(17人)であった。「悪くなった」が1.5%(1人)だった。

アンケート結果（学生）

Q5 Q4の理由は？（n=65） ※一部抜粋

良くなった

- ・色んな偏見がなくなったから ・高齢者、障害者ということがマイナス面だけではないと気づいたから
- ・楽しかったから ・実習や授業を通し、介護について理解し、大事な仕事として感じる
- ・先輩が多い ・授業を通して介護職がどれだけ重要視されているのかわかったから
- ・勉強する前は、ただ介護をしているイメージだったからです ・実習施設の方がみんな優しく良い人だった
- ・想像していたよりも働きやすいことがわかったから ・介護職を学んで介護職がやりがいがありそうに思えたから
- ・授業や実習を受ける中で介護職に対する大変さやキツさよりも、やりがいや楽しさを感じたから
- ・実際にじぶんで体験してイメージが変わったから ・人を助ける方法や介護の仕方が楽しく学べているから
- ・実習では、利用者さんとのコミュニケーション方法などが学べたから
- ・イメージでは高齢者の方が急に怒ったり、施設自体が閉鎖的なのかと思っていて、それが実習で楽しくレクリエーションをしたり、普通に生活している様子を見たから

変わらない

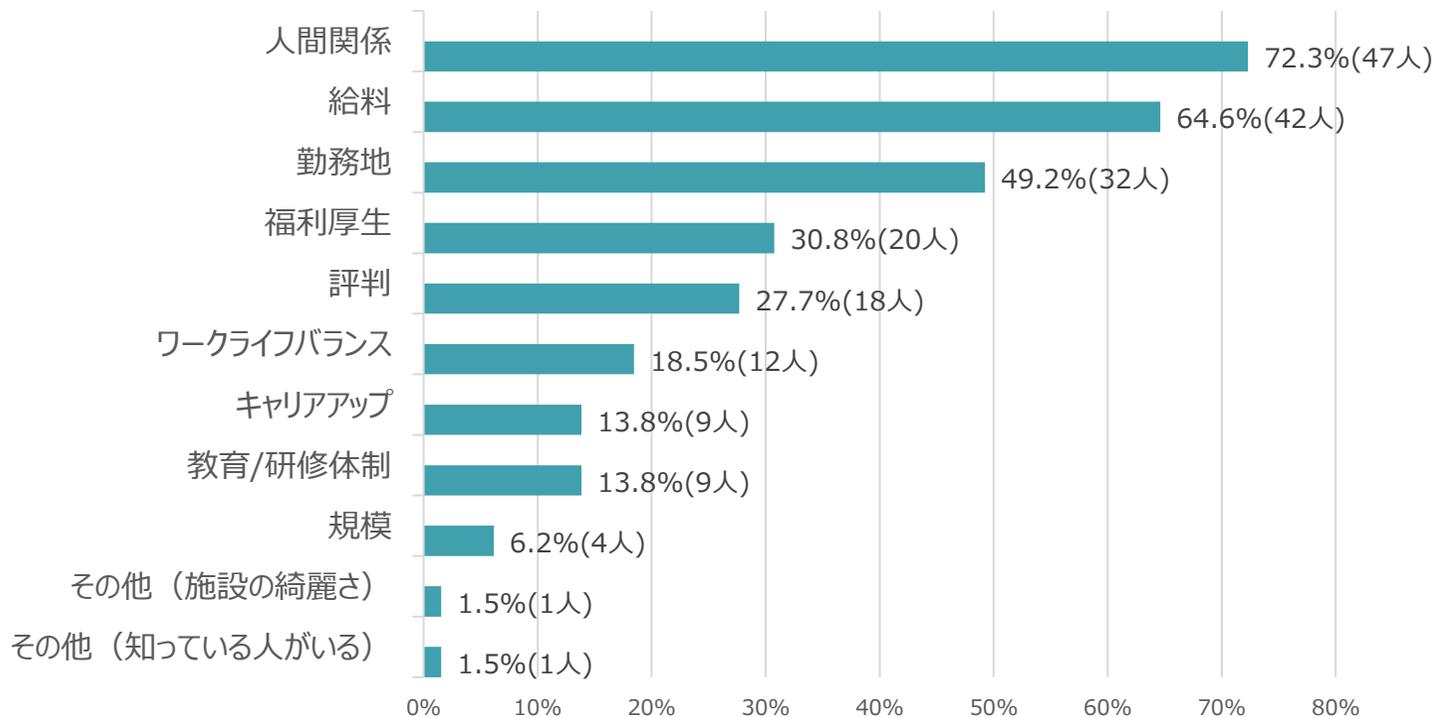
- ・実習で体力を使ってる様子を見たから
- ・やり甲斐や温かさに触れるエピソードを聞いて良くなった反面、体力精神力共に削られつつ低賃金労働である現実を見たから

悪くなった

- ・体力や精神的にキツそうだから

アンケート結果（学生）

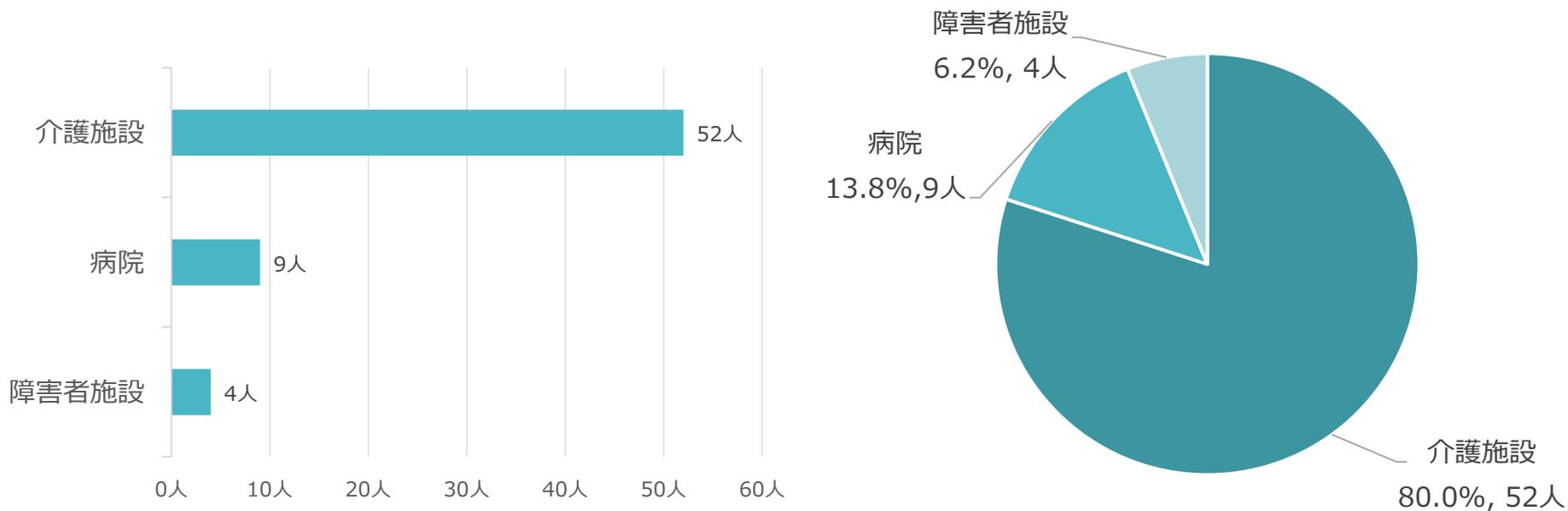
Q6 就職先を決める時に求めるものはなんですか？3つ選んでください。（n = 65）



65人の学生の内、就職先を決める時に求めることは「人間関係」や「給料」との回答が多かった。

アンケート結果（学生）

Q7 どこで働きたいですか？（n=65）

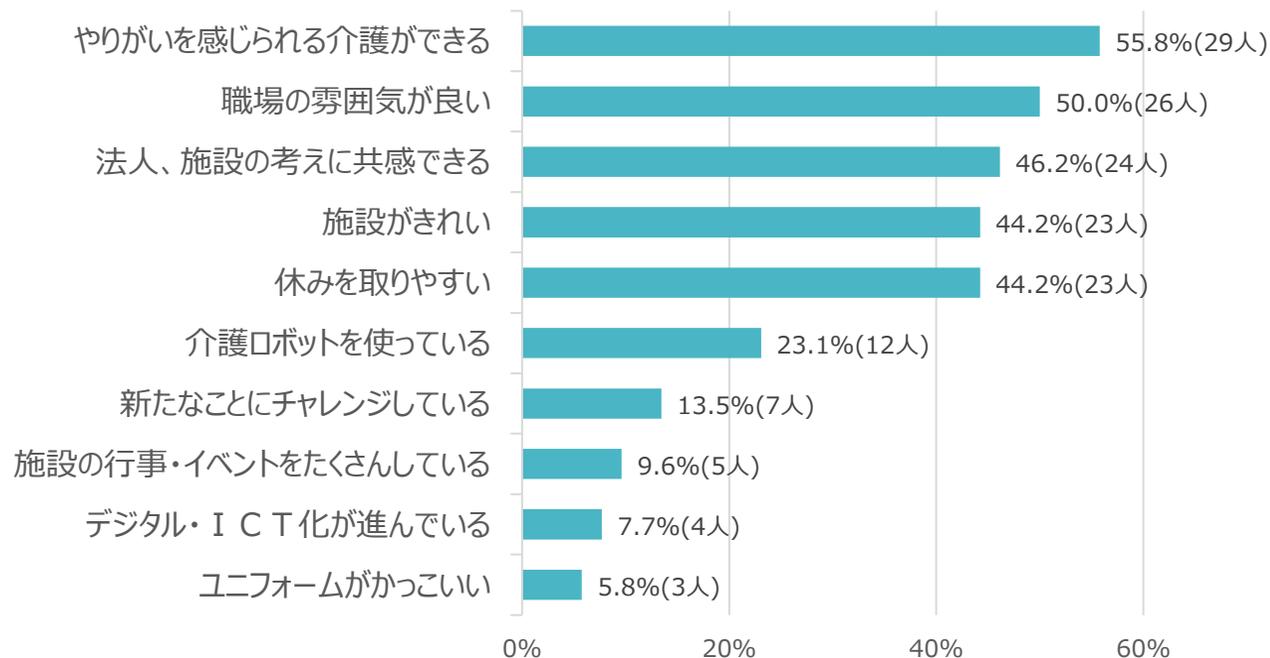


65人の学生の内、「介護施設」で働きたいとの回答は80.0%(52人)、「病院」は13.8%(9人)、「障害者施設」は6.2%(4人)との回答だった。

アンケート結果（学生）

※以降の設問はQ7で「介護施設」と回答した学生のみ対象とする

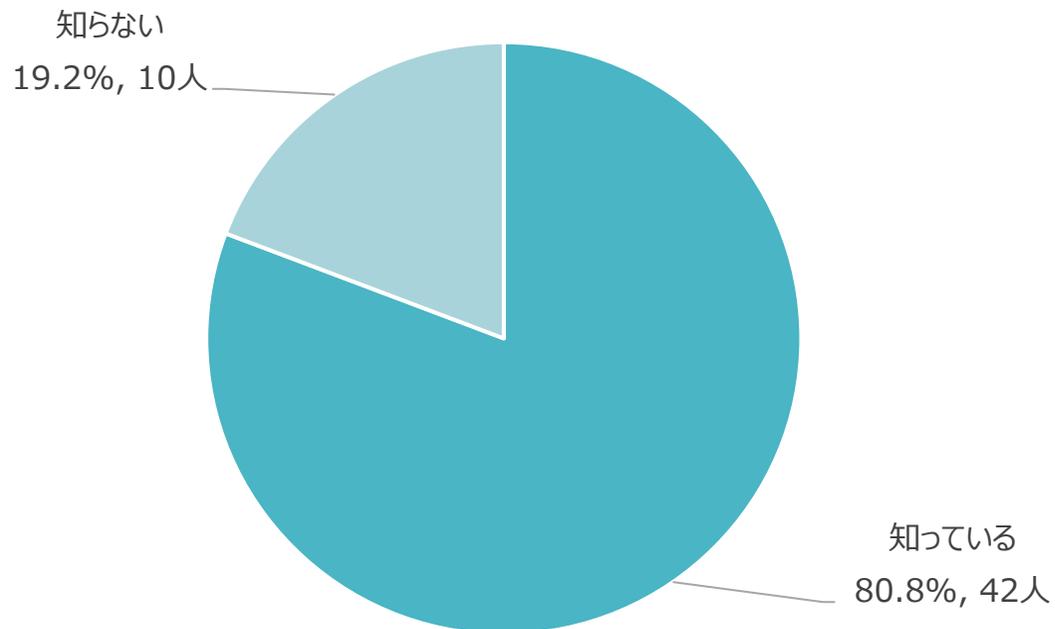
Q8 どんな施設で働きたいですか？3つ選んでください。（n=52）



52人の学生の内、「やりがいを感じられる介護ができる」「職場の雰囲気が良い」との意見が多かった。また、「介護ロボットを使っている」や「デジタル・ICT化が進んでいる」との回答もみられ、介護ロボットへの関心も増えてきていることが分かった。

アンケート結果（学生）

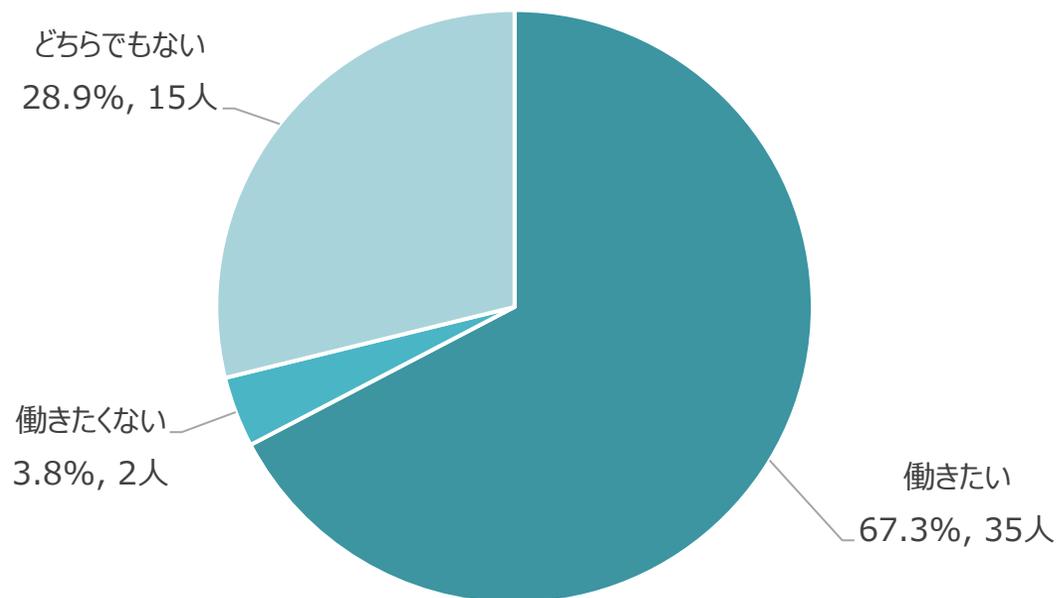
Q9 介護ロボットを知っていますか？（n=52）



52人の内、介護ロボットを「知っている」生徒は80.8%(42人)だった。

アンケート結果（学生）

Q10 介護ロボットやICT機器を使っている施設で働きたいですか？（n=52）



52人の学生の内、67.3%(35人)が介護ロボットやICTを使用している施設で「働きたい」という回答であり、関心が高くなっている。

アンケート結果（学生）

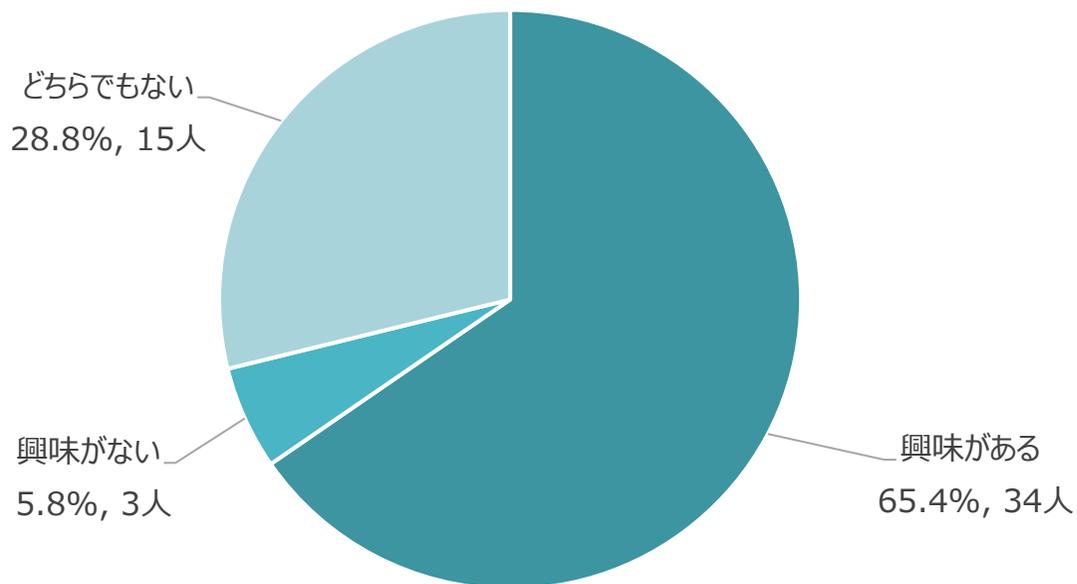
Q11 介護ロボットやICT機器を使っている施設で働きたい理由（n=52） ※一部抜粋

理由

- ・興味有り
- ・職員の負担が減るから
- ・仕事のつらさが減る
- ・便利
- ・介助しやすいから
- ・勤務時間の短縮につながりそうだから
- ・仕事がやりやすいと思う
- ・役に立つから
- ・仕事が楽になりそうだから
- ・身体が楽になる為（腰の負担の軽減）
- ・介護者も利用者さんも安心安楽で生活ができるのなりたいと思うから
- ・古いやり方に囚われず、新しいものを取り込んでいく姿勢のある施設は好感が持てるし、職員の働きやすさを意識している施設で働きたいと思うから
- ・介護者の負担を少しでも減らすことができるのはもちろんその分利用者様の為の時間に使えたり、介護職に興味を持つ人が増えると思うから

アンケート結果（学生）

Q12 「北九州モデル」に興味はありますか？（n=52）



52人の学生の内、北九州モデルに「興味がある」と答えた生徒は65.4%(34人)だった。

考察（学生）

5校156人から回答を得た。

「介護職のイメージ」について尋ねた設問（複数回答）では、「体力的にきつい仕事」（52.6%）、「精神的にきつい仕事」（47.4%）というネガティブな意見が約半数に見られた一方、「今後も求められる仕事」（61.5%）が最も多く、次いで「資格や専門知識を活かせる」（53.8%）という意見が多くみられた。また、「世の中のためになる」（44.2%）という意見も多く、ポジティブな意見が多数を占めた。

将来的に就職を希望する職種について訊いた設問では、「介護職以外の福祉職」が23.1%、「決めていない」が21.2%となっている。「介護職」を選ばなかった理由としては、「他の職種に就きたい」が半数近くを占めており、前述のネガティブなイメージがあると考えられ、高校進学時に介護士養成課程を選択したものの就職先としては慎重になっている現状が示された。

一方、「介護職」をあげた学生は41.7%となっており、その理由として、「介護が好き・興味がある」「人の役に立ちたい」「高齢者が好き」「高齢者の支援をしたい」といった積極的な意見が多数を占めている。

介護職を目指す学生において、心身の負担を懸念する声がある一方、介護そのものや高齢者が好きであり支援したいという強い動機を背景に、「今後も求められる仕事」「世の中のためになる」といった社会課題の解決に積極的に関与していこうとする姿勢が見られる。

今後の介護の担い手の育成においては、介護職の社会的意義を理解してもらいつつ、身体的、精神的負担を軽減するためのテクノロジーの普及の現状と展望について、理解を深めてもらえるよう、さらなる啓発が重要と思われる。

考察（学生）

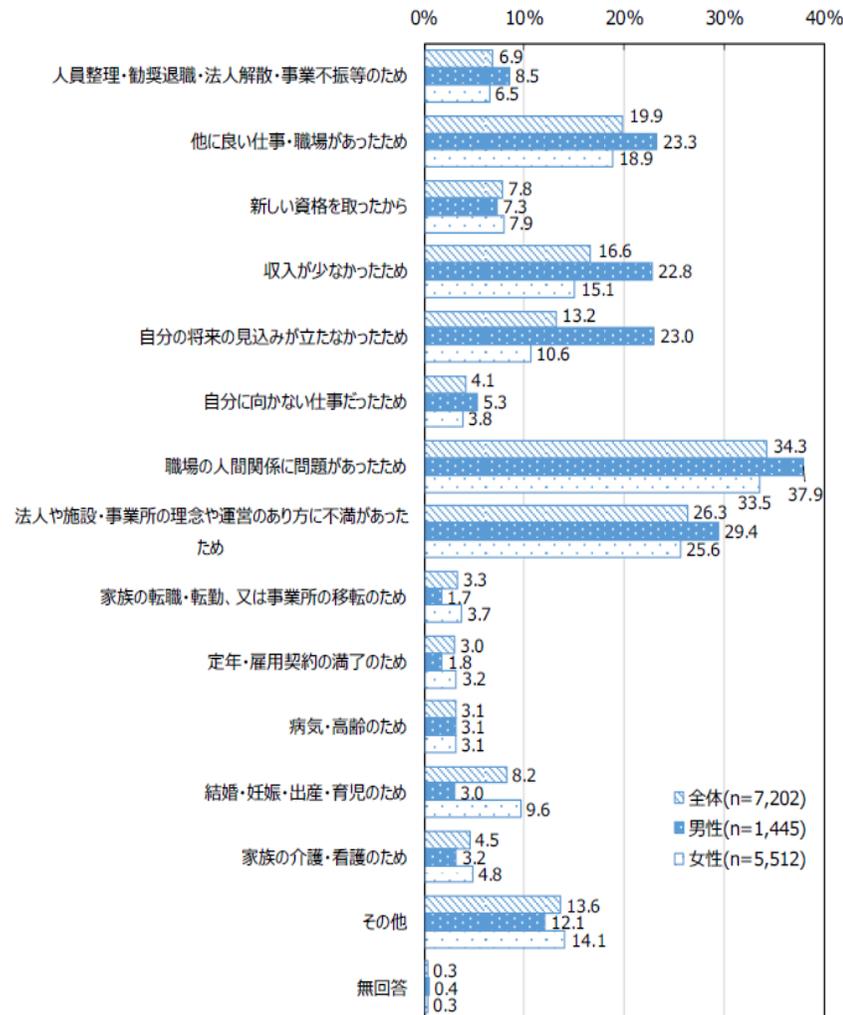
卒業後に「介護職」を希望する学生が、就職先を決める際に求めるものとしては、「人間関係」（72.3%）、「給料」（64.6%）が上位を占めた。

介護労働安定センターが実施した「令和5年度介護労働実態調査 介護労働者の就業実態と就業意識調査」によると、「介護従事者が直前の介護の仕事を辞めた理由」を尋ねた設問では、「職場の人間関係に問題があったため」という回答が34.3%と最も多く、「収入が少なかったため」が16.6%で4番目となっている。

これは今回の調査結果と合致する内容であり、学生時代に、求められる仕事、世の中のためになるからと志高く業界に入るものの、人間関係や給料の少なさといった現実的な問題に直面し、離職・転職するケースが多いのではないかと推察される。これらのことから、学生時代の理想と就職後の現実との間に大きな乖離があると考えられる。

過去の北九州モデルの実証（令和元年度）や、北九州モデル導入支援事業の実施事業所では、業務改善や介護テクノロジーの導入により、職種間のコミュニケーションが活発になったり、業務上の情報共有が円滑になったりといった効果が示されている。これは、学生が就職先に求める「人間関係」を良好にする手段として、業務改善や介護テクノロジー活用を進める「北九州モデル」の導入が有効な手段となることを示している。

直前職が介護関係の仕事だった介護従事者の直前職を辞めた理由（複数回答）

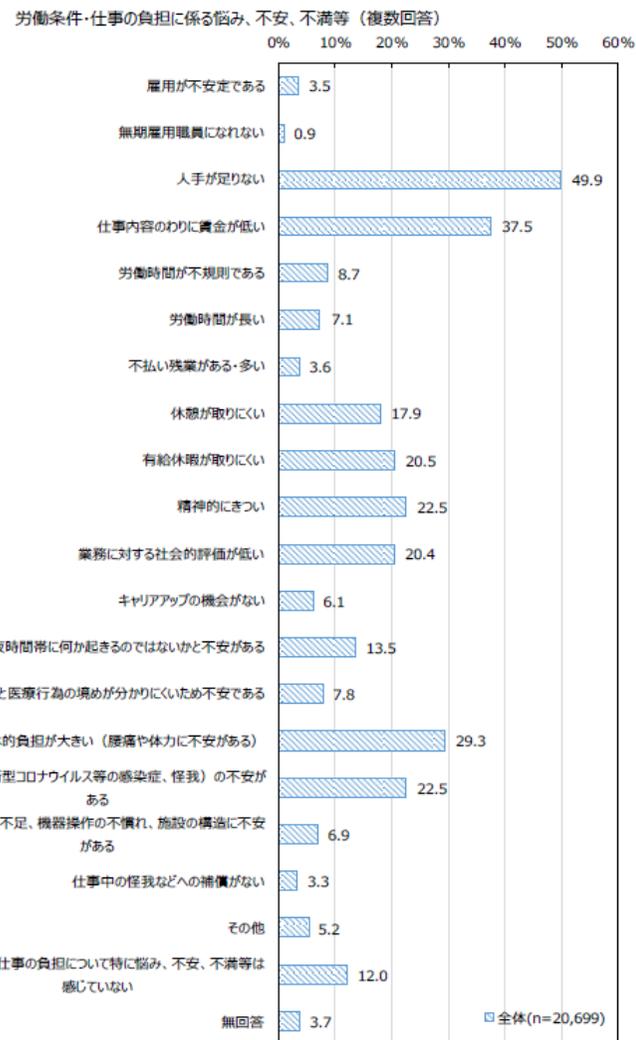


考察（学生）

また、同じく介護労働安定センターが実施した「令和5年度介護労働実態調査 介護労働者の就業実態と就業意識調査」によると、「労働条件・仕事の負担に係る悩み、不安、不満等」という設問では、最も多い「人手が足りない」（49.9%）に次いで、「仕事内容のわりに賃金が低い」（37.5%）、「身体的負担が大きい」（29.3%）、「精神的にきつい」（22.5%）が上位となっており、介護職として就職後に人間関係、賃金の低さ、身体的・精神的負担の大きさに悩み、離職・転職する様子が見られる。

本調査における「介護職のイメージ」についての回答でも、「体力的にきつい仕事」「精神的にきつい仕事」が半数近くの学生から挙げられており、就職前のイメージと現実が一致していることが示されている。

「北九州モデル」の導入により、身体的負担、精神的負担が軽減されることが示されており（令和元年度実証）、また、北九州モデル導入支援事業（令和3年度～）でも同様の効果が認められている。こうした成果を介護事業者や現職者に対して周知する施策はこれまでも多数実施されてきているが、将来において介護の担い手となる学生や求職者へのアプローチは十分とは言えない。このため、介護テクノロジーの活用推進と併せて、こうした取り組みのベストプラクティスや機器の最新情報などを広く発信し、一般市民や学生への啓発を推進していく必要がある。



考察（学生）

今回の調査にて、介護士養成課程の学生が就職先を選ぶ際の視点として、身体的・精神的負担の大きさを懸念していることが、改めて浮き彫りになった。現役の介護従事者の悩みとしても同じ様に挙げられており、就業前の懸念がそのまま現実のものとなっていることが示された。他方、介護テクノロジーの導入はそれらの負担を軽減する効果が広く認められており、これを介護事業者や現職者のみならず、これからこの業界に就職しようとする学生や一般市民に対しても広く周知していく必要性が示された。

また、就職先決定の大きな条件として、人間関係や給料が挙げられているが、こうした点において就職後に期待を裏切られる形となり、その後のキャリア形成に影響を与えている可能性が示唆された。これらに対して、業務改善や介護テクノロジー活用は、人間関係にも好影響を与えることが過去の実証、事例から明らかであり、また、生産性の向上に寄与することも同様に示されている。また、介護職員等処遇改善加算においても、申請要件に「生産性向上のための業務改善の取組」があり、業務見直しや介護テクノロジー活用が求められている。すなわち、生産性向上によって、直接的に介護事業所の収益性が高くなるほか、上記加算による介護職員給与の上昇も見込まれる。ゆえに、こうした点においても「北九州モデル」の導入が有効であるといえ、介護業界の内外にその周知を図っていくことが非常に重要となる。

さらに、「どんな施設で働きたいですか？」との問いに対しては、「介護ロボットを使っている」（23.1%）、「デジタル・ICT化が進んでいる」（7.7%）という回答が一定数あり、介護テクノロジー活用が新規採用においても重要な要素となりつつあることを示している。また、この設問では、「やりがいを感じられる介護ができる」（55.8%）、「職場の雰囲気が良い」（50.0%）という回答が上位2つを占めた。令和元年度の北九州市による北九州モデルの実証では「他職種で連携したケアができた」、「中身の濃い業務ができてモチベーションが上がった」、「利用者のケアに集中できた」という声があり、北九州モデルの導入が、将来的な学生の採用につながる可能性が示唆された。

これらのことより、北九州モデルによる、介護テクノロジーの導入、活用や業務改善に取り組むことは、介護事業所の業務改善だけにとどまらず、介護人材の採用という点においても有効である可能性が示された。

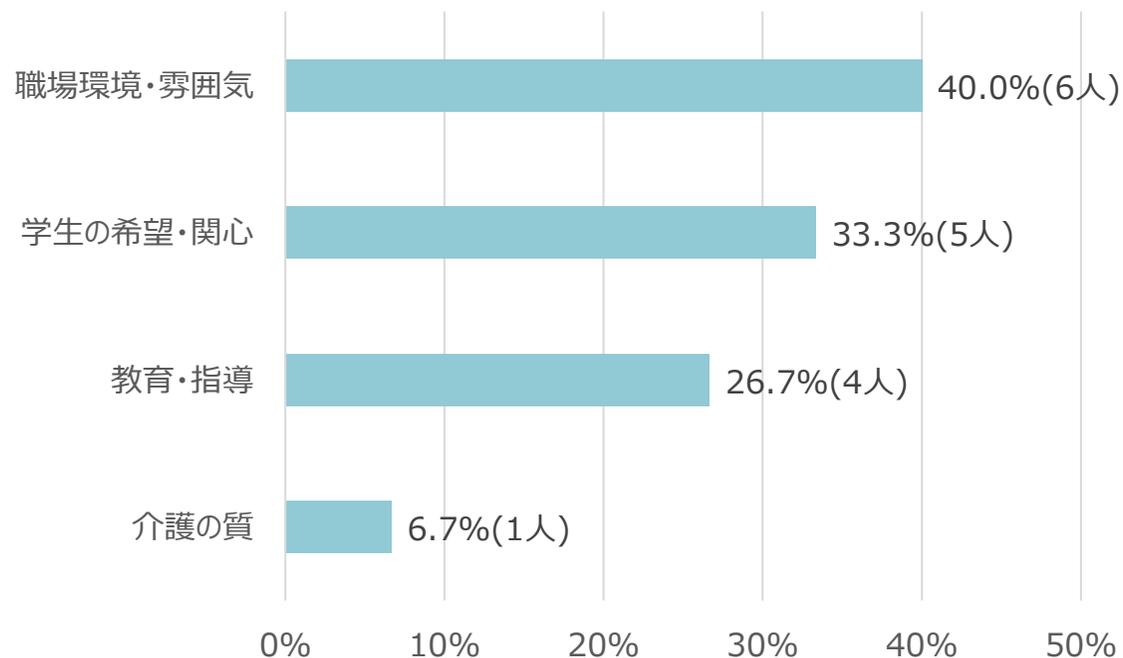
教員アンケート

アンケート項目（教員）

Q1	学生に対して就職指導する際に考慮することは何ですか？	
Q2	介護ロボットを知っていますか？	知っている・知らない
Q3	介護ロボットを導入、ICT機器を活用している事業所等を学生に進めたいと思いますか？	勧めたい・勧めたくない・どちらでもない
Q4	Q3を選んだ理由は？	
Q5	「北九州モデル」の動画を見て「北九州モデル」に興味はありますか？	興味がある・興味がない・どちらでもない

アンケート結果（教員）

Q1 学生に対して就職指導する際に考慮することは何ですか？ (n=15)

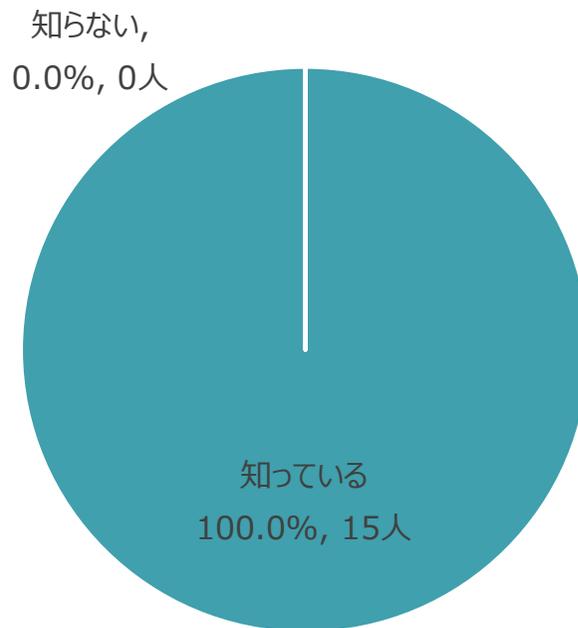


※複数回答の為、合計数は一致しない

「職場環境・雰囲気」が最も多く15人中6人の教員が挙げている。
「介護の質」を挙げた教員は15人中1人のみであった。
科学的介護の実践やテクノロジーの活用などを挙げた教員はいなかった。

アンケート結果（教員）

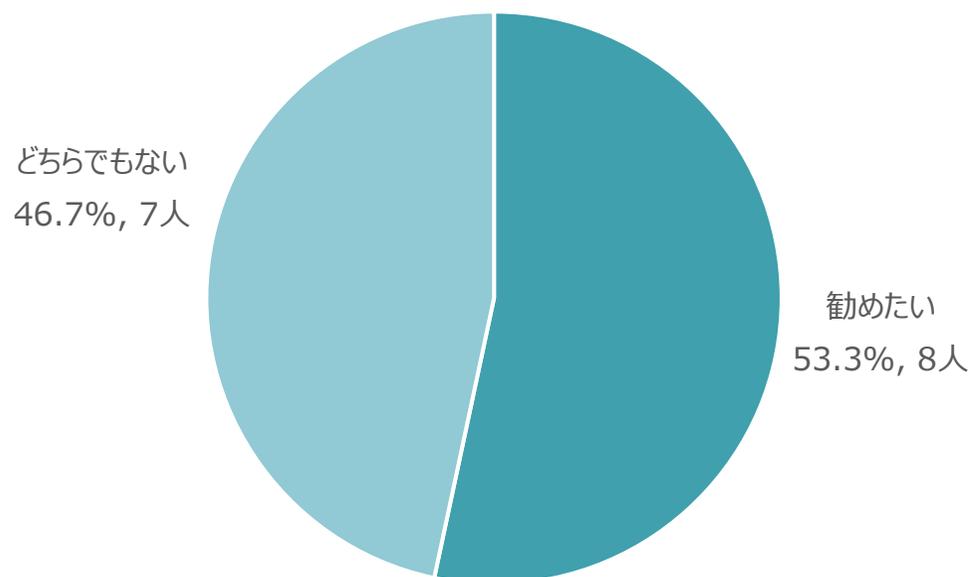
Q2 介護ロボットを知っていますか？(n=15)



回答者全員が「知っている」との回答であった。

アンケート結果（教員）

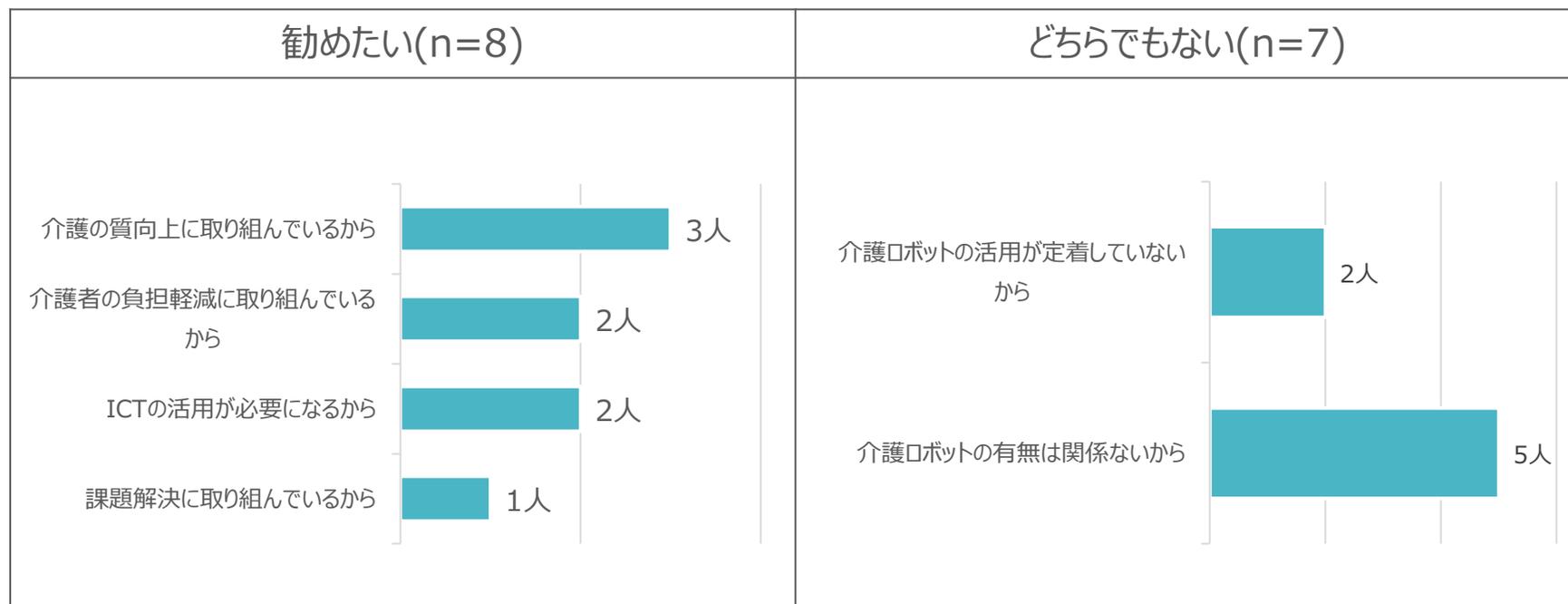
Q3 介護ロボットを導入、ICT機器を活用している事業所等を学生に勧めたいと思いますか？ (n=15)



「勧めたい」と回答したのは15人中8人であった。

アンケート結果（教員）

Q4 Q3を選んだ理由は？(n=15)

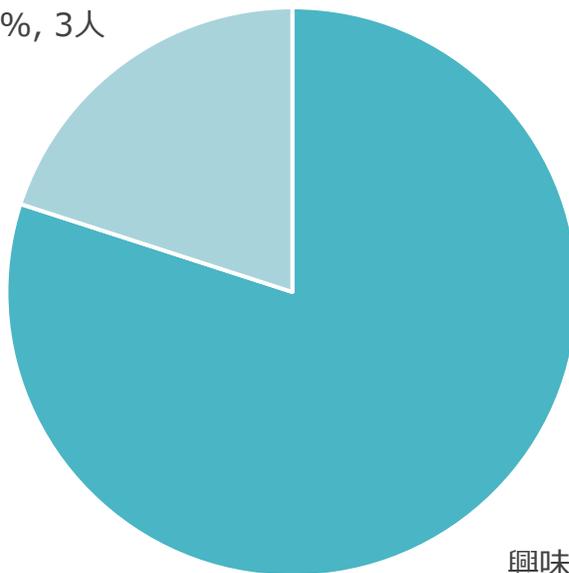


どちらでもないの回答に「介護ロボットの有無は関係ないから」と答えた教員は5人であった。

アンケート結果（教員）

Q5 「北九州モデル」に興味はありますか？ (n=15)

どちらでもない
20.0%, 3人



興味がある
80.0%, 12人

「興味がある」と答えたのは15人中12人であった。

考察（教員）

6校15人から回答を得た。

「学生に対して就職指導する際に考慮することは何ですか？」という問いに対しては、「職場環境・雰囲気」を挙げた教員が40.0%となっていたが、介護テクノロジーの活用や、データ活用、科学的介護といった要素は見られなかった。一方で、「介護ロボットを導入、ICT機器を活用している事業所等を学生に勧めたいと思いますか？」との問いには半数以上（53.3%）の教員が「勧めたい」と回答している。また、「北九州モデルに興味はありますか？」との問いには、80.0%の教員が興味があると答えている。

このことから、介護士を養成する現場において、介護テクノロジー活用やデータ活用による科学的介護の有効性や必要性について、認知が高まっていることが示された。一方で、就職先選定の際の決め手にまではなっておらず、「北九州モデル」の周知や、介護テクノロジー活用の啓発をさらに進めていく余地があるといえる。

また、学生においても、介護テクノロジー活用や業務改善の取組が、就職先を選ぶ際の要素となることが示されており、今後の介護の在り方や自身の就職先を考える際に、介護テクノロジーや介護DXに触れる機会を提供することは非常に重要であるといえる。

すなわち、こうした介護従事者の養成校に対しても、「北九州モデル」について広く周知を図っていくことが必要と考えられる。